

# ヒバリ

*Alauda arvensis*

ヒバリ科・夏鳥



ヒバリ

## 名前の由来

晴れた日に、空高く舞い上がりさえするので「日晴(ひはる)」といったことから。漢字名：雲雀

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）17cm。スズメよりも大きい。

地上にいるときは後頭の冠羽を立てる。

体は淡黄褐色で、頭上、体上面、翼それに胸には、縦方向に黒い短い線が一面にある。翼の肩近くのところは、赤褐色で線などの模様はない。

飛ぶと翼の後縁が白い。尾の外側も白い。

声：繁殖期には高い空で「ピィピィピィ、リリリ、ピリリリ、リィリィ、ピリリリ」などといった細かな声でせわしなく鳴き続けている。

地鳴き（さえずりではない普通の鳴き方）では「ピルッ、ピルッ」という声で鳴く。

飛び方：高空でさえずる際は、なわばり内の地上から飛び立ち、強く羽ばたきながら上昇し、一点に静止したり、静かに輪を描いたりしたさえずる。

地鳴き（さえずりではない普通の鳴き方）をするときは、草の上を低く飛びながら鳴くことが多いという。

歩き方：右足と左足を交互に出して歩く。

類似種と区別点：ビンズイ、タヒバリ。

ビンズイはオリーブ色が強く、冠羽がない。ヒバリによく似た声でさえずるが、「ツイ、ツイ、ツイという声が入るのが特徴。また、枝や岩の上でさえずる。

タヒバリは色が濃く、冠羽がない。歩きながら尾を上下に振る。



ヒバリ。地上にいるときには冠羽を立てている

## 生息環境・分布

丈の低い草が疎らに生え、露出した地面の多い乾燥地を好み、牧場、草原、川原、農耕地に生息する。十勝では夏鳥。

分布：ユーラシア大陸の温帯・亜寒帯と北アフリカの一部に分布。

日本では九州以北から北海道までの全国で繁殖する。積雪の多い地方では冬に南下して越冬する。

北海道には夏鳥として3月下旬に渡来し、繁殖する。

十勝には、3月下旬に渡来。平野部の農耕地や河川敷などに生息し、繁殖する。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
本州以南 (越冬期・通年)	越冬											

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
ワシ・タカ

## 食性・他生物との関わり

草の実や昆虫が主な餌。  
地上を歩行しながら餌をついばむ。繁殖期ではないときに

は川原の土手など乾燥したところで草の実を食べる。  
捕食者は猛禽類など。

## 繁殖生態

繁殖期は4月初旬～7月、年1～3回、一夫一妻で繁殖する。繁殖地に来た当初はさえずりすることもなく目立たない。つがいであるものも、オスが少し早めに来るものもいるという。

巣作り前にオスはさえずりや争いによってなわばりを作る。巣はメスだけが地上で作る。草の根もとに作られることが多い。外装はヨモギの枯れ葉や大豆の枯枝などを用い、内装にはイネ科の枯れた根を用いる。巣はお椀型、外径10cmくらい。オスは巣作りの間、メスの後に付いて回り、地上でさえずりを繰り返すという。

2～5個（平均4個）産卵する。メスだけが卵を抱き、約

10日でヒナがかえる。

オスメス共同でヒナに給餌する。9～10日と短い期間でヒナは巣立つ。巣立ち後約19日で次の繁殖に入るといふ。



ヒバリの親子。手前が子ども

## 興味深い話

■アイヌ民話では、地上に降りた中空の神の娘クナウを探しに大空の神に使わされたが、地上の美しさに心奪われ探さなかったので罰として天には帰れないようされたため、「帰りたい、帰りたい」と大空の神に訴え鳴いているという。

■鳴き声は「日一分(ひいちぶ)、日一分・・・」と聞きなされる。

■主に飛んでいるときにさえずるが、杭や石の上でさえずることもある。

■なわばりの面積は5,000～10,000㎡で、なわばり内で巣材採集、交尾、繁殖、採食をするという。

■巣作りの時には、なわばり内の丈の低い植物の上をつがいであぐらとするという。

■ヒナは9～10日と短い期間で巣立つが、このときにはまだ飛べるようになってはいない。これは危険の多い地上に巣を作る鳥としての特徴だという。

■宅地開発などが進むにつれ、ヒバリの住み場所は減っている。

■堤防上を車で走っていると、そこにいたヒバリが車を避

けて飛び、車の進行方向少し先に降りる、ということが繰り返されることがある。

■水浴びはせず、砂浴びをする。

■ヒバリは帯広市の鳥に指定されている。

■十勝地方のアイヌ語では「プクサチリ」という。

■アイヌ語名プクサチリは「ギョウジャンニクノ鳥」の意。別名「リコチリポ＝高いところにいる小鳥」「チャランケチリ＝談判する鳥」ともいう。



看板の上でさえずるヒバリ

## 配慮事項

裸地が混じる丈の低い草地が必要。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)  
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000  
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)  
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房

1993

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

羽田健三・小淵順子 (1967) ヒバリの生活史に関する研究. I 繁殖生活. 山階鳥研報、5:72-84.

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ